

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学附属中学校

校長 松田 孝史

1 単元名 「テレビCMと正しくつきあうために－メディア・リテラシーにかかわって－」

2 単元の目標

◆ 日常生活を送る中で、テレビやインターネットをはじめとしたさまざまなメディアから流される大量のCM(commercial messageの略語、和製英語)によって、我々がいかに大きな影響を受けているのを知り、それらの情報について、エシカル消費の観点も取り入れて、消費者として冷静で賢明な判断をする態度を養うことが肝要であることを知る。(知識及び技能)

◆ CMを題材として、その内容が人権や多様性、環境などに配慮した公正なものになっているのか、情報に虚偽や誇張はないか、などについて考え、問題点を指摘できるようになること。また、自らが考えた公正なCMを提案、発表できること。(思考力・判断力・表現力等)

◆ CMに潜む問題点について積極的に考察し、実際にCMを制作するにあたって積極的に関わろうとし、自分の考えを積極的に発表しようとする事。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、総合的な学習におけるESD教材の一つとして取り上げる。何気ない日常の行動の中にあるESD的課題を扱うことは、生徒たちのすぐ目の前にあるものの見方を変えることであり、それは直接に生徒の行動の変容に繋がりが得るものであると考える。

生徒たちは日頃から、テレビやインターネット、その他あらゆるメディアにおいて、数多くのCMや広告に触れており、そこから得た情報を元に商品やサービスを購入していると思われるが、そうした自らの消費行動の善し悪しについて、立ち止まって客観的に捉えていることは少ない。今回、CMや広告に潜むさまざまな問題点について考えることで、身近なところで自らの行動に関わる課題が存在し、場合によっては知らぬ間に自らが「加害者」側に加担していたり、不利益を被ったりしている可能性があることを知らせることによって、今後商品を購入する際に思い止まったり、選択の変更をもたらすことになる。

また、実際にCM制作を体験することで、情報を公正に伝えることや商品を競合する他のものといかに区別して売り込むかのバランス取りの難しさ、CMのもたらす情報の限界や危うさなどにも気づくことが期待できる。

(2) 生徒観

中学生という成長段階においては、周囲の目を必要以上に気にしたり、他の者と異なる言動をすることで「浮いて」しまうことを恐れたりする傾向がある。衣服や持ち物について、その時の流行を受け入れ、無批判に購入したり、「かわいい」「かっこいい」という視点だけで商品を選んだりすることが多い。実際に、通学用カバンについては、あるブランド名が大きく書かれたリュックサックの使用が、たいへん目立っている状況がある。

本校の家庭科では2年生時に「エシカル消費」を学習し、より具体的に公正な消費や購買

について学んでおり、商品の購入時に少なからず影響を及ぼすであろう CM の問題点について知らせることにより、「エシカル消費」について、より幅広い視点をもって学習することができると考える。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、最初に生徒たちに、「この授業では、CM や広告について扱いますが、特定の企業や会社、また CM、広告に出演しているタレントなどを誹謗、中傷する意図は全くありません。また、特定の商品について、不買を勧めるものでもありません。」と明言しておく必要があると考える。該当 CM の企業、会社に勤める保護者もいることを想定して、批判をする場合でも言葉遣いを慎重にするべきである。

導入では、生徒自らの商品購入行動がテレビやインターネットでの CM に影響されているかどうか、影響されているとするならば、どの程度、どんな場面で影響を受けているかを考えさせ、CM に影響されて商品を購入することの善し悪しについて考えさせることから始めたい。

次に、テレビ CM について、実際にどれくらいの本数が流され、企業、会社はどれくらいの費用をかけて CM を流しているのか、CM になぜ莫大な費用をかけるのか、CM で規制されていることはあるのかなど、その実態について基本的な知識を与えたい。

その上で、実際のテレビ CM についていくつかの例を取り上げ、その内容や表現に問題や不正がないかどうか考えさせたい。そして、問題点について分類し、どのような視点を持って CM からの情報を受け取るべきかについて考えさせたい。特に、男女の役割の固定化、性の商品化、性差別に繋がる内容が多いことについては、触れ方に注意しつつも、十分に注意させたい。

さらに生徒には、クロームブックを使って、班ごとに、身近なもの（地域の特産物など）についての 30 秒間のテレビ CM を制作させ、情報を簡潔に分かりやすく伝えること、また、公正に誇張なく伝えることを体験させ、相互に発表と評価をする機会を持ちたい。

(4) ESD との関連

◆本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・多様性… 不特定多数に対して新奇性や話題性を重視して作られる CM には、画一的でステレオタイプな価値観が多く見受けられるが、多様な価値観があることを尊重するべきであること。
- ・有限性… CM では相変わらず買い換えを喚起し続けており、SDGs の実現に向けて、資源の有効利用や環境への負荷を軽減するべきであること。
- ・責任制… 子どもから大人まで、またさまざまな価値観や文化的背景を持つ人々に対して、CM を製作する企業はもっと社会的責任を持つべきと気づくこと。

◆本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

テレビ CM を無批判に受け入れ、購買欲をそそられるままに購入することは避けるべきであり、商品そのものについて、また CM そのものの表現方法についても、問題がないか、消費者として騙されていないのかなど、注意して視聴することの重要性に気づかせたい。

・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

テレビCMがもたらす情報を鵜呑みにせず、その商品の真の必要性、示された効能や性能に偽りや誇張はないか、価格は適正か、ジェンダーや人権などの表現方法に問題はないか、生産・流通上に人道的な問題はないか、環境負荷への問題は無いかなどなど、多面的な観点を持つことで、世の中の他のさまざまな情報についても、賢く公正に対応する力をつけたい。

・コミュニケーションを行う力

自らの意見をわかりやすく他者に伝える、また他者の意見を正しく聞き取ることをさせたい。さらに、実際のテレビCMの中身を考察したり、自らテレビCMを制作したりするという体験を通して、情報の選択の仕方や明確で公正な伝え方について学ぶ機会としたい。

◆本学習で変容を促す ESD の価値観

・世代内の公正

テレビCMを始めとするマスメディアからの情報を無闇に信じ鵜呑みにすることにより、重大な社会的問題から目を背けるように仕組まれたり、誘導されてしまうことは、企業による人権の搾取とも言えるものであり、我々は、平等・公正に情報を享受し、それをもとに市民として正しく行動に結びつけることができる権利があるという価値観を育てたい。

・人権・文化を尊重する（文化多様性の尊重）

面白さや利便さなどを追求する中で、知らぬ間に、多様性や人権を傷つける可能性があることに注意し、利益追求の中で軽んじられかねない多様性や人権を意識し尊重するべきという価値観を育てたい。

・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

利益追求を第一使命とする企業は、商品の買い換えや新規商品の購入を熱心に求めてくる。物によって得られる幸福以外にあるはずの、精神的なつながりによる幸福や物がなくても工夫、代替して感じられる幸福などを得られるよう、価値観の変革を図ることの重要性に気づかせたい。

◆達成が期待される SDGs

5 ジェンダー平等

12 生産と消費

16 平和・公正

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①CMや広告から受けるの情報について、鵜呑みにせずいくつかの観点を持つて見ることの大切さを理解している。 ②班で協力して、クロームブックを使って、擬似的にテレビCMを制作することが	①CMや広告について、多様性や人権、環境保護などの観点から問題がないか、また消費者として賢明な価値判断、購買行動ができるかどうかを考 え、意見を述べることができる。	1CMや広告に潜む問題点について積極的に考察し、実際の行動に生かそうとしている。 1テレビCMの制作において、班員と協力しながら、趣旨を踏まえて、積極的に制作に関わっている。

できる。	②学んだ知識を用いて、30秒間のテレビCMとして、情報を簡潔に公正に分かりやすく伝え、その意図を説明することができる。	
------	---	--

5 単元の指導計画（全4時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>【第1時】導入・問題提示</p> <p>○好きなCMや嫌いなCMについて、その理由も含めて発表する。</p> <p>○自らの購買行動が、CMに影響されているかどうかについて発表する。</p> <p>○CMの問題点について考え、その具体例を発表する。</p> <p>○CMを視聴する際に、消費者として持っておくべき観点について考えを発表する。</p>	<p>(提示資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビCM放送回数（時間） ・CMに関する規制 <p>(用意する観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有用性、有効性 ・価格は適正か ・ジェンダーや人権への配慮 ・製造、流通上の人道的な問題 ・環境負荷は適正か ・消費者に誠実か 	<p>ア① (知・技)</p> <p>イ① (思判表)</p>
<p>【第2時】事例研究・CM企画</p> <p>○前時にあげた観点について確認する。</p> <p>○生徒が気になるCMを提示し、どのような点が問題か、あるいは好ましい点は何かについて意見交換する。</p> <p>○班ごとに題材を決め、それについてのテレビCMを制作するための話し合いをし、絵コンテ、台本を準備する。</p>	<p>(提示資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各観点に関わって、問題があるとされるCMビデオ <p>(CM制作上の注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則30秒一発撮りで撮影する ・小道具、衣装など使用可 <p>(配布物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵コンテ、台本記入用紙 	<p>ア② (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
<p>【第3時】CM撮影</p> <p>○前時に制作した絵コンテ、台本に従って、班ごとにクロームブックを使って、30秒のCM撮影をする。</p>	<p>(撮影上の留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影場所を分散する ・音量、明るさ、背景などに注意 <p>・編集をするならば、「キネマスター」(端末に導入済み)が使用できること</p>	<p>ア② (知・技)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
<p>【第4時】発表・意見交換・まとめ</p> <p>○班ごとにCMの意図や工夫を述べた後、CMを発表する。</p> <p>○視聴後に、感想や意見を共有する。</p>	<p>(準備物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターまたは大型モニター ・感想記入用紙 	<p>イ② (思判表)</p>

